

# ふれあいの場 人々を見守る



デンソー幸田の桜姫（経済産業大臣賞）

参加風が、さらに増え、地域のまとまりが拡がると皆の笑顔と地域の



こうた凧揚げまつり実行委員会  
土屋善也会長の話

## 町の凧揚げ起源

最初は昭和51年  
昭和40年代に地元の子どもたちが正月に凧を揚げて楽しんでいた。  
これを見て役場が支援に乗り出した。  
昭和51年に新春凧揚げ大会を開催し、手づくり凧で

今回は、町の三大まつりのひとつ「こうた凧揚げまつり」の実行委員会会長土屋善也さんと日本の凧の会、三州幸田の凧の会 会長杉浦忠幸さんからご意見をいただきました。



## 議会への期待は 町政の無駄をチェック

競い合った。翌年から大凧・中凧・小凧の部で顕彰をおこなうこととした。

現在の「まつり」になってから今年の1月で16回目となった。

今年の参加は、全国凧の会から55基、町内の大凧では、21基となった。

観客は、1万5000人であった。

## 凧の面白さ・夢

みんなの笑顔

地区と企業が一体となり、大凧が大空いっぱい泳ぐこと。今年は、

地元企業の参加風が経済産業大臣賞を獲得した。

活性化となると考える。

## 実行委員会の仕事

まつり事業がメイン

年間8回の委員会を開催し、まつりの準備や協賛金集めなどに苦労している。

現在の会長職は、ライフサークル会長が兼務している。

ライフサークル活動は、「夏まつり」にも関与し、町おこしに張り切っている。

## 議会だよりの感想

議員の活動状況に興味

議員の活動状況を興味を持って読んでいます。紙面はカラーで、きれいにできています。地域の情報や身近な事業などを掲載してほしい。

行政に期待することは、「いつまでも虫の見える環境の町」を期待している。



- 税金の有効利用、活用。
- 町民の声を反映し、生きがいを感じる予算執行を。
- マンネリ化行事の改善、工夫を。
- 行政に望むこと
- 凧揚げへの議員さんチームの参加。
- 町民の要望をいかに町政に生かすか、町のいいなりではなく、議会の意見を。
- 地域との懇談会。
- 町政の無駄を切るチェック機能。

こうた凧揚げまつり  
実行委員会の皆さんの  
ご意見

議会に期待すること



# 住民の 声 を聞く

パート 8

# 凧は親子 上空で静止し



※石川県の内灘で開催されている世界凧の祭典では、三州須美の凧が平成21年に2回目のグランプリを受賞した。

## 県外での活動

### 富士山との調和

町おこし支援では、静岡県朝霧アリーナで開催される「たこたこあがれin富士山」に伝統凧保存会として参加している。16畳の三州凧は、多くのカヌエマンの注目の的になっている。富士山を背景に上空で静止する姿は美しい。

人々の悩みを引き受け天空から応援していると感じる。

## 伝統の継承

### 前年並みは意識の低下

幸田の凧は、浜松の凧師の指導を受けて成長してきた。

現在の会員は28人である。

「前年並みでよい」という考えは必ず意識が低下していく。来年は、写真コンテストを考えている。

## 会長の夢

### 幸田のブランド凧

凧には、伝統凧と創作凧がある。幸田町固有の創作ブランド凧ができれば、地域おこしや町の活性化に貢

## 写真募集中

議会だよりの表紙写真を募集しています。テーマは季節感と暮らしの中の笑顔が溢れているもの。



(詳細は、議会事務局まで)  
TEL:63-5151

## 議会だよりの感想

献できると考えている。

### 個性のある記事を

興味のあるところを読んでいる。写真が多く紙面は明るくきれいだ。

専門用語は分かりにくい。町の広報誌とは違う個性のある記事を期待している。

○本稿の編集にご協力いただきお礼申し上げます。

## 凧の使命

凧は幸福を導く。凧師は、凧に命を吹き込む。上空に揚る大凧は、「こ



三州幸田の凧の会  
三州須美凧の会  
杉浦忠幸会長の話

## 日本の凧の会

### 全国で技術交流

日本の凧の会の本部は東京。全国に80の支部がある。愛知県では、名古屋・尾張一宮と幸田の3支部がある。青森から九州まで全国各

「こにいるよ」と存在感を示し、うなり声を発して答えってくる。

凧揚げは、祖先が残した伝統の文化財、幼いころに帰り、親子ふれあいの場を作ってくれる。

地で交流し、お互いの技術の向上を図っている。

各地の前夜祭が、伝統の継承に寄与している。

